

ネコギギの住む学校

～鈴鹿高等学校 自然科学部～



【お話を伺った人】

学校法人 鈴鹿享栄学園
鈴鹿高等学校 自然科学部のみなさん



【これまでの主な受賞歴】

- ・第63回日本学生科学賞・最終選考会「入選1等(全国ベスト20)」受賞
- ・第68回三重生物研究発表会「知事賞」、「中日新聞社賞」受賞
- ・日本自然保護大賞2020 子ども・学生部門「大賞」受賞
- ・第72回愛鳥週間 平成30年度野生生物保護功労者表彰「環境大臣賞」受賞



顧問
にし 西飯 信一郎 教諭

自然科学部の部室では、国指定の天然記念物ネコギギが絶滅回避のための保護増殖を目的に飼育されています。高等学校によるネコギギの飼育は、全国初の取り組みです。鈴鹿川水系に生息するネコギギの保護と、その生息環境の保全を目指す鈴鹿高等学校 自然科学部のみなさんの活動をご紹介します。

自然科学部の活動

鈴鹿高等学校自然科学部は、学校に隣接して流れる鈴鹿川水系の水生生物調査とネコギギのモニタリングを継続して17年になります。ネコギギのモニタリングを開始したのは当時、採集したギギをネコギギと勘違いしたことがきっかけだったそうです。過去に鈴鹿川にはネコギギがいたという記録もあり、ネコギギの調査をしていくことになりました。そしてこれまでの調査の実績が評価され2017年には、亀山市の「ネコギギの生息域外保全事業」に関わり、自然科学部でのネコギギの飼育がはじまりました。室内での飼育と繁殖は難しいことも多く、さまざまな工夫をして検証しながら、この3年間で得られた稚

魚の数は200匹近くに、年々増えてきています。

その一方で、全国や県内の科学コンクール、研究発表会



ではネコギギの保護に関する調査・研究の成果を積極的に発表しています。最近では日本最大の科学コンクールである日本学生科学賞の最終選考会まで進み入選1等を受賞しました。論文やプレゼン資料の作成、発表練習など、飼育や調査の時間以外にも多くの時間を費やしています。そして自然科学部の取り組みは、野生生物の保護の分野でもその功績を称えられています。

また、自然科学部の活動がはじまった頃から「昔語り」にある鈴鹿川の姿を復活させていくための「原動力」になりたいという思いが受け継がれています。高校生による調査・研究を基に、鈴鹿川の現状を広く知ってもらえるよう、地域での啓発活動にも力を入れていこうと頑張っています。

そこで今回は自然科学部のみなさんに、近年のモニタリングから分かっているネコギギの生息状況や「ネコギギの生息域外保全事業」についてお話を伺いました。みなさんがどのような思いで保護活動に取り組んでいるかをご紹介します。